

## 聖書はキリストを証ししている

ヨハネ福音書5:39-47

【新改訳2017】

- 5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです。
- 5:40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。
- 5:41 わたしは人からの栄誉は受けません。
- 5:42 しかし、わたしは知っています。あなたがたのうちに神への愛がないことを。
- 5:43 わたしは、わたしの父の名によって来たのに、あなたがたはわたしを受け入れません。もしほかの人がその人自身の名で来れば、あなたがたはその人を受け入れます。
- 5:44 互いの間では栄誉を受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたが、どうして信じることができるでしょうか。
- 5:45 わたしが、父の前にあなたがたを訴えるとは思ってはなりません。あなたがたを訴えるのは、あなたがたが望みを置いているモーセです。
- 5:46 もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことなのですから。
- 5:47 しかし、モーセが書いたものをあなたがたが信じていないのなら、どうしてわたしのことばを信じるでしょうか。」

### 【祈りながら考えよう】

- (1) 39節の2つの解釈、「直接法と命令形」とは何ですか。
- (2) 旧約聖書はどのようにキリストを証ししていますか。
- (3) 主を信じないユダヤ人たちを訴えるのはモーセであると、なぜ言えますか。

### 【解説】

#### (1) 二通りの解釈、直接法と命令形

《あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです》(39節)

《Search the scriptures; for in them ye think ye have eternal life: and they are they which testify of me. / KJV》

39節は、二通りに訳すことができる。1つは、新改訳2017のように、《あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています》というように、「調べています」と直接法に訳すことができる。これを支持する学者としては、ライトフット、モーリス、F・F・ブルース、スコルフィールドなどがいる。

また命令形と取ると、「調べなさい」(KJV)と訳せる。これを支持する学者としては、アウグスティヌス、カルヴァン、アルフォード、ライル、尾山令仁などがいる。

命令形の立場は直接法より迫力があり、主はこのような話し方をよくしておられる。この方が、直接法よりはるかに文脈に沿っていると思える。主はユダヤ人たちに、「父は耳で聞き取れる声とか、目に見える形での現れによってではないが、わたしについて証言しておられるのである」と言われた。いったいどのようなものであったのか。

彼らは、それを聖書の中に見いだせる。「行って自分の聖書を読みなさい。よく調べて、言わんとしていることを十分理解するようにしなさい。そうすれば、聖書のみことばが、わたしを証言していることが、はっきりとわかるであろう。もし父なる神がわたしについてされた証言がどのようなものであるか知りたいなら、聖書を調べなさい」

主は、そう言っておられる。

「調べる」と訳されていることばは「細かく、丹念に調べる」という意味である。ただ読むだけで満足してはならないことをユダヤ人たちに示すために、意図的にこのことばが使われたのではないか。

聖書はただ読むためだけでなく、注意深く、思慮深く調べるように、ユダヤ人たちにおくったのだ、とキリストは言っておられる。だから「読みなさい」とは言わずに「調べなさい」と言われた。

主が、今こそ注意深く探求し、その深い意味内容を理解するよう命じておられる。これらの重要なことばは、容

易に目につくように表面にあるのではなく、地中深く埋められた宝のようなものである。また、「調べる」ということばは、聖書の中で、悪い意味で使っている例は見当たらない(1ペテロ1:11)。

#### (2) 旧約聖書はすべてキリストを証ししている

主は、「聖書は、わたしについて証ししているものです」と言われる。フェルスは次のように述べている。旧約聖書では、次の3つの方法を通してキリストを証ししている。

①全般的証し 世の初めから存在することばの「声」とも言うべきものであり、旧約聖書の各所を通じ、人々に語りかけている。

②型としての証し 過越の羊、青銅の蛇、律法で定めている犠牲、すべてがキリストを証しするものである。

③明確な預言を通しての証し

このところから、主が旧約聖書をどれほど尊んでいかに注目すべきである。主は、靈感を受けた書物よりなる「ユダヤ人の正典」をはっきり認めておられた。

聖書を読むことは、我々に与えられたきわめて明白な義務であることをはっきり覚えよう。すべての光の宝庫をなおざりにして、どうして霊的光を期待できよう。主が、旧約聖書を指して「調べなさい」「わたしについて証ししているのです」と言われているのなら、なおさらのこと、聖書全体を調べる義務がある。

現代、急激に広まってきた、無知からくるキリスト教の形骸化の原因の1つは、怠惰から聖書をなおざりにすることに由来する。聖書を熱心に学ぶとどのような祝福が神から来るか。ペレヤですばらしいことが起こったと記されている(使徒17:11)。

#### (3) キリストのもとに行こうという意志の欠如

《あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません》

救われるためにキリストのもとに行こうという意志の欠如こそが、多くの者が天国から締め出されている原因であると、やがてわかる。

人間の罪が、その原因なのではない。どのような罪でも赦されるのだ。キリストの贖いのみわざに限度があって、それが原因となっているのではない。主は人類すべての者のために、十分な価を支払われた。問題は、全く別のところにある。

それは、人間自身のうちに、キリストに来て悔い改め、そして信じるという思いがないことである。このことこそ、多くの者が失われたままで救われぬ理由である。回心しない者は、良くなるとういう意志がないので今の状態にあるのである。

#### (4) 不信仰のおもな原因

《互いの栄誉は受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか》

主がこの御言葉によって警告されたことは、彼らはその信することにおいて「誠実でない」、ということである。彼らの、聞き、学びたいという願望は全くうわべだけのもので、実際は神よりも人を喜ばせようとした。このような心の状態では、彼らが信じる可能性は期待できない。

この主の御言葉の中に、1つの重要な原則が含まれており、我々は特に注目しなければならない。「真の信仰」は、ただ単に人間の知性や理解力だけで持ち得るものではなく、心の状態によるのである。知性の面では納得するかもしれない。また良心はとがめを覚えるかもしれない。しかし人が秘密裏に神よりももっと愛している何かを持っている限り、「真の信仰」はない。

#### (5) モーセの書に対するまことの信頼の欠如

主はユダヤ人に、次のように言われた。

《もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。

モーセが書いたのはわたしのことなのですから》

これらの御言葉は、この末の時代に特に注目する必要がある。①モーセという人物が実在したこと。②モーセは実際、一般にモーセが書いたとされている書の著者であったこと。この2つの点で、主の証しは極めて明瞭である。

通常モーセの書とされている書は、彼によって書かれた。そこに記されていることは、すべて信じるに足るものである。主の証しは、論駁できない主張である。

主イエスは、旧約聖書の権威をはっきり証言しておられる。破壊的な聖書批評に少しでも耳を傾けてはならない。旧約聖書と新約聖書には非常に密接な関係がある。古代キリスト教の神学者アウグスティヌス(354-430)は、これを簡潔にこう述べている。「新約は旧約の中に隠され、旧約は新約の中に現されている」。



旧約聖書の写本